



スカウト 浄土

The Scout Jodo

スカウトの力・

そなえよつねに

浄土宗スカウト連合協議会

理事長 濱田智海



全国各地のボーイスカウトから物心画面にわたる支援を受け、人と人の結びつきを改めて感じることが出来ました。

熊本地震後「スカウトの力」とは何なのかを考えると、平素の訓練以外の何物でもないということでした。キャンプ・ハイキングで学ぶ野営技術、そして「ちかい」と「おきて」の実践で学ぶ精神的な強さ、それは全てボーイスカウトのモットーである「そなえよつねに」に結びつきます。

令和6年元旦、北陸地方能登半島で震度7の地震が発生。多くの家屋が一瞬にして崩れたニュース映像を見て2019年に発生した熊本地震を思い出さずにはおれませんでした。熊本地震中心地から100キロ近く離れていた当地も大きく揺れ、お寺の納骨堂には亀裂が入り仏具は全て倒れ飛び散っている光景を目の当たりにし、地震の怖さを改めて実感しました。
当時、私はボーイスカウト熊本県連盟理事長の職にあり、全

「スカウティング」は学校や予備校で習うような、いろんな知識を学ぶ座学ではありません。スカウトは、自ら行動し、その行動力による「実践」が知識を社会に還元する方法であり、スカウトの「奉仕」とは、まさに

このことであると思います。
ボーイスカウトの創始者ベーデン・パウエルはおそらく野営生活という方法を通して「公共心を育て、公共のために奉仕を行い、社会のために自己犠牲を払う」という行動のできる頼もしい若者たちを育てようとしたのではないかと考えます。

「そなえよつねに」は、まさしく「時も場所も選ばずに訪れる問題(例えば戦争や、地震・豪雨などの自然災害など)」に對して「備え」をして訪れる問題を解決する能力を身に付けておきなさい、ということなのです。

さらに、日本のボーイスカウトとしては後藤新平日本連盟初代総長の示された「自治の三訣」をしつかりと心に留め置かなければなりません。

人のお世話にならぬよう
人のお世話をするよう

そしてむくいをもとめぬよう
新年を迎え法然上人浄土宗開宗850年の記念の年、もう一度ボーイスカウト活動の原点に立ち戻り浄土宗スカウトとして前に進み歩んでいかなければと思えます。

第四十九回 浄土宗スカウト指導者研修会報告

浄土宗スカウト連合協議会 安 静 俊 祐

去る令和5年11月18日から2日間、標記の研修会が長野市善光寺大本願に於いて開催されました。

一日目の開校式、参加者39人に対して善行寺大本願第一二一世鷹司誓王大僧正台下より御垂辞とお十念を賜り、研修会が幕を開けました。記念写真のあと、善光寺宿坊の一つである「淵之坊」へと移動しました。



ご住職若麻績享則上人より善光寺縁起の絵解きをしていただきました。



淵之坊は歴代ご住職が絵伝を用いて絵解きをしながら、善光寺の歴史を説明するお役を勤めてこられた宿坊です。善光寺についてより深い理解を得て信仰を深めることができました。

次に、長野組往生寺様に移動し、全員で別時念仏をしました。礼拝も含め、お念仏を参加者全員でお唱えする時間はとても心清らかなり、身の引き締まる時間となりました。

こちらは「刈萱堂往生寺」といわれ、刈萱上人と石堂丸の物語の舞台となった場所です。九州博多の城主、刈萱加藤左衛門尉重氏が出家して等阿法師と名乗り、妻子から離れて高野山に隠棲して修行中のところへ、子の石堂丸がたずねて来て弟子入りをお迫ったのでやむなく許しましたが、親子の情愛にひかれて修行のおろそかになることを怖れ、善光寺に参籠して如来よりこの地を授かり、八十三歳で寂しました。生前、彫刻して遺しておいた地藏尊を、後から慕ってきた石堂丸もそれを手本とし



て同じものを刻みました。これら二体の仏像を刈萱親子地藏尊といえます。堂内でその縁起を説明する絵解きは今や貴重な教化風俗となつていますが、絵解きをされる方の後継がおられないので、すでに録音されたものをお聞かせいただきました。独特な節回しを付けて語られる絵解きは、なんとも言えない哀愁を帯び、刈萱上人と石堂丸の物語をドラマチックに聞かせてくれるものでした。

また、往生寺は童謡「夕焼け小焼け」のゆかりのお寺としても有名です。作詞は東京都八王子出身の中村雨紅で、この歌の始まりを「ゆうやけこやけでひがくれて やまのおてらのかねがなる」と書きました。この歌詞をみて長野市松代出身の作曲家草川信が、生まれ育った土地

の風情を想い、生まれたのが「夕焼け小焼け」ということです。その後夕暮れに合わせ、境内の鐘を全員一打ずつ鳴らしその音を味わいました。

日も暮れてきたところで淵之坊へ戻り、地元産の素材をふんだんに使用した信州ならではの精進料理を楽しませていただきました。

翌朝、善光寺本坊において日の出とともに始まる「お朝事」に参拝しました。天台宗と浄土宗の二座に渡るお朝事で、善光寺一光三尊阿弥陀如来に手を合わせました。

朝食後、善光寺公認案内人の篠原実千代様のガイドで、善光寺の隅々まで案内していただきました。お戒壇巡りでは、一寸先も見えない暗闇の中を進み、それぞれに「極楽の錠前」に触れてご本尊様と直接御縁を結ぶことができました。

二日間を通じて、善光寺をはじめ刈萱上人に触れることができ、自身の信仰を深めるよい研修会となりました。



第六十六回 浄土宗スカウト仏教章研修会報告

浄土宗スカウト連合協議会 塚原 侑 依

京都の桜が満開の中、浄土宗総本山知恩院「和順会館」において、令和5年3月27日から29日の2泊3日で第66回浄土宗スカウト仏教章研修を開催しました。アフターコロナが進む中ではありますが、今年度もスタッフを含め全員がPCR検査をし、10名のスカウトが本研修に参加しました。

この研修会は仏教章取得を目指す本研修となっているので、受講するスカウトは各自事前研修にて簡単な指導を受けてからこの本研修に参加します。事前研修を踏まえスカウトは本研修でより発展した内容で「釈尊伝とその教え」「宗祖の伝記とその教え」を学び、研修スタッフとともに勤めや別時念仏も実践しました。スカウトたちは、限られた時間の中で「宗



教・信仰」を考え、真剣な眼差しで講義を聴いておりました。講義を通して、「仏教とは」「浄土宗とは」「法然上人の教えについて」等を安静先生、東海林先生から学び、最初は自信なさに小々な声でお称えしていたお念仏も、研修が進むに連れて大きな声でしっかりとお念仏をお称えするようになっていきました。参加スカウトの感想の中に『南無阿弥陀仏』のこのお念仏こそが1番大事と知ってから、心の底からお念仏をすることができました』とあり、その気持ちがお念仏をお称えする自信・声の大きさに繋がったように感じます。仏教聖歌も同様です。和順会館での研修会でしたので、朝礼はもちろん講義中にも知恩院に上らせていただき、御影堂前、御廟前でスカウトと共に十念をお唱えしました。別時念仏では100礼しました。スカウトも一生懸命、礼拝して別時念仏の終わりに「もう少し、やりたかった」というような声もいただきました。

研修2日目の夜には、和順会館の研修を行なったいたホールの下で、仏の子として請願を立てていただく明るく・正しい生活を送れるよう、この研修でもっとも大切な儀式である帰敬式が行われました。帰敬式を受けたスカウトの感想を紹介します。



「帰敬式では「自ら仏に帰依したてまつる。自ら法に帰依したてまつる。自ら僧に帰依したてまつる。」と唱える場面があり、研修の時には正直唱えているだけになっていたのですが、式では私は今から仏様に誓うのだという実感がわき、少し緊張しました。仏の子になるというお話を聞きまして改めて仏様のお顔を拝見するとやさしそうで何でも受け入れてくれるお母さんのように見えてきました。最初の2本のろうそくにしか火が点いていない状態は今の自分の姿だと聞き、確かに今の自分には沢山の欲があつて心がその欲でいっぱい闇に包まれているけれど、そこに仏様の教えという光が入り込み、さらに仲間の光も集まって心の中が明るくなつたような気がしました。こ

館の研修を行なったいたホールの下で、仏の子として請願を立てていただく明るく・正しい生活を送れるよう、この研修でもっとも大切な儀式である帰敬式が行われました。帰敬式を受けたスカウトの感想を紹介します。



最後に行うようにします。」
「最後にこの研修会を開催するにあたり、和順会館のスタッフの皆様をはじめ、携わっていただきました皆さんの方々に深く感謝し、報告とさせていただきます。」

栄誉を讃えましょう

浄土宗仏教章授与スカウト (令和5年2月1日~令和6年2月29日)
令和6年3月1日作成

浄土宗承認	氏名	団	寺院名	教導職
R 5. 3. 30	岡村 優真	生駒 4	浄照寺	白馬 龍毅
R 5. 3. 30	神藤愛理菜	飯田 1	柏心寺	安静 俊祐
R 5. 4. 10	林 晃一	台東 2	正定寺	原 善順
R 6. 2. 20	中田 望海	高市 2	浄照寺	白馬 龍毅
R 6. 2. 20	中川 輝星	大阪 11	源光寺	藤野 立徳
R 6. 2. 20	玉木 仁心	長野 15	真光寺	近藤 秀祐
R 6. 2. 20	中沢 歩誉	長野 15	真光寺	近藤 秀祐

浄土宗開宗850年 慶讃事業に全員集合!

いよいよ浄土宗が開宗されて850年のご祥当の年を迎えました。当会では令和6年度の締め括りとして慶讃事業を左記のとおり実施します。

詳細は今秋に周知できるよう進めますので、関係の皆さまには万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

記

日時 令和7年3月29日(土)

15時～20時

場所 大本山増上寺

参加対象 会員と所属団、過去

仏教章研修会参加スカウトおよびスタッフ、過去指導者研修会参加者

行事内容

第1部 帰敬式・開宗850年慶讃法要・講演会

第2部 懇親会

仏教章研修会でのあの感動をもう一度思い出してくださいたく、帰敬式(献灯式)を行います。

す。会員と慶讃事業の結縁者には、スカウトならではの実用品を記念に配布予定です。ご期待ください。

なお、参加したいのに参加案内が来ないという方は、この紙面の下の事務局にご一報ください。以上



信仰奨励章取得のためのアンノウンスカウトとアンノウンスノウンソールの貸出があります。詳細は事務局へ。

今年度 主な行事予定

■総会のお知らせ

令和6年度年次総会は左記のとおり開催します。現地参加、リモート参加両方できるように考えておりますので、どうぞ、ご予約をお願いします。

日時 令和6年5月14日(火)

14時～16時

場所 宗務庁東京第2会議室

■令和6年度指導者研修会

今年度の指導者研修会は、日本仏教スカウト協議会主催の研修会に参加します。担当宗派は立正佼成会です。

10月5日(土) から6日(日)

の1泊2日を予定しています。

詳細がわかりましたらホームページにアップします。

■第68回仏教章研修会

第68回仏教章研修会は、開宗850年慶讃事業を実施する関係で、左記での開催を予定しています。

日程 令和7年3月27日(木)

～29日(土)

場所 大本山増上寺

■訃報

令和5年度中に左記の会員が御遷化されました。謹んで報告します。

勝部秀信上人

(熊本教区第二組盛光院)

服部良譽上人

(京都教区亀岡組宗福寺)

なお、令和5年3月に御遷化された東海林良雲前理事長様の御遺志で雲上寺様から当会に50万円のご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

令和5年度広報掲載報告

◆宗報 (和合)

- ・ 6月号 (仏教章研修会報告)
- ・ 8月号 (総会報告)
- ・ 9月、10月、11月号 (指導者研修会開催案内)
- ・ 1月号 (理事会報告)
- ・ 3月号 (仏教章研修会開催案内、仏教章事前研修のお願い)

◆お知らせチラシ

・ 宗報3月号に同封発行

◆メールニュース

・ No.57を配信
※メールニュースの配信および会員向けメールリングリストに登録希望の方は、事務局まで。

スカウト浄土

(第四十三号)

- 発行/令和六年三月二十日
- 東京都港区芝公園四一七一四
- 浄土宗宗務庁社会部内
- 浄土宗スカウト連合協議会
- URL: <https://scout.jodo.or.jp>
- e-mail: scout-info@jodo.or.jp
- 編集者/巖谷勝正
- 印刷/小竹印刷(株)